

登録コード	E8253306	開講年度	2026			
授業科目	社会科教育特別演習G				担当教員	関 良徳
英文授業名	Special Seminar of the Social Studies G				副担当	
単位数	2	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	・法的領域において受講生が有する個別の問題関心について受講生自らが問題設定を行い, 調査・研究の指導を受けながらその解決を導くための, 法的思考に関する基礎的能力を涵養する。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	・自らの研究成果をもとに社会科の授業教材を開発し, 実践する能力を身につける。
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	この授業では、①各受講生が興味・関心を抱いている法的問題を論文テーマとして設定し、②必要な調査・研究を行う。③さらに、その調査・研究によって得られた結果を展開・発展させるためのアドバイスや議論を行う。④最後に、その成果を論文形式の構成にまとめる。					
(5)授業計画	第1回：授業の概要説明と各受講生によるテーマ設定を行う（以下は過年度のテーマを例示）。 第2回：調査及び研究の手法について、それぞれのテーマごとにアドバイスをを行う。 第3回：調査・研究報告及び議論（1）：労働問題と法教育 第4回：調査・研究報告及び議論（2）：LGBTと法 第5回：調査・研究報告及び議論（3）：主権者教育と模擬投票 第6回：調査・研究報告及び議論（4）：市民的不服従の理論的基礎 第7回：調査・研究報告及び議論（5）：フェアトレードと正義 第8回：論文作成の手引き：調査・研究をまとめる手法について概説する。 第9回：論文形式へのまとめ（1）：労働問題と法教育 第10回：論文形式へのまとめ（2）：LGBTと法 第11回：論文形式へのまとめ（3）：主権者教育と模擬投票 第12回：論文形式へのまとめ（4）：市民的不服従の理論的基礎 第13回：論文形式へのまとめ（5）：フェアトレードと正義 第14回：論文概要及び目次をそれぞれ作成し、報告する。 （最終回に授業アンケートを実施する。） 定期試験 ＊本授業では、教育実習等と日程が重ならないように、スケジュールの調整を行う。					
(6)成績評価の方法	・報告レジュメの作成及び報告の際の工夫（30％）、討論への参加態度や貢献度（40％）、最終レポート（30％）によって評価を行う。 ・正当な理由のない欠席は認められない。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可					
(7)成績評価の基準	①問題設定が適切であり、②その問題の背景を説明できており、③その問題が孕む課題を指摘できており、④その課題に対する既存学説の解決法を把握できており、⑤その上で自己の見解を示し、かつ、それが優れていれば「卓越している」。①から⑤を満たせば「かなり上にある」、4項目を満たせば「やや上にある」。3項目までなら「水準にある」。					
(8)事前事後学習の内容	授業の最後に次回の論点を示し、その論点に関して、授業内容の復習を兼ねた課題レポートを作成する。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。					
(9)履修上の注意	・自らの研究テーマについて事前に指示された文献を読んでくることが前提となる。 ・討論への主体的な参加が求められる。					
(10)質問、相談への対応及び連絡先	授業時間中、授業後、オフィスアワー等で質問・相談を受け付ける。					
【教科書】	資料及び文献については授業時に配布する。					
【参考文献】	・参考文献等については授業の際に適宜紹介する。 ・過去の卒業論文のテーマについては法学研究室のHPを参照。 http://lawlab.cocolog-nifty.com/					